

大学生の身体装飾行為に関する意識の調査

松島 岳広

第1章 調査研究の概要

1. 調査研究の目的と背景

近年では、化粧やヘアカラーなどの低年齢化が進み、小学生から化粧やヘアカラーをしている人もいるという。化粧やヘアカラーの低年齢化により、若年層の身体装飾行為の経験は増加傾向にある。身体装飾行為とは化粧や衣類・装飾品から始まり、身体に穴を開けたり、入れ墨や焼き印をするなど、身体に直接、もしくは身に着ける下着、服飾などで、身を飾りたてることを身体装飾といい、その行為全般を指す言葉として宇野(宇野 2006)が論文で用いたものである。実際、大学生において身体装飾行為はどの程度行われているのだろうか。本論文では大学生において男女ともに比較的多くの人に取り入れられていると考えられる「ヘアカラー」「ピアス」「眉そり」について取り上げて、考察していきたい。

高校生や大学生などはファッションに興味を持ち始める年代である。実際に女子中高生向けのコスメ市場は年々上昇しており、今では一つの巨大なマーケットとなっている。また高校時代にぱっとしなかった人物が、大学入学を機にイメージを払拭しようと、「大学デビュー」を試みることもあるだろう。2013に行われたGoo ランキングの「大学デビューのためにしたことランキング」では第3位「流行の髪型にした」や第6位「ピアスをあけた」などがランキングしている¹。このように大学デビューの典型的な例としてヘアカラーやピアスなどの身体装飾行為があげられる。大学デビューで行われるような身体装飾行為は自分を変えたいという変身願望からなる行為であるといえるのではないだろうか。ファッションとしての身体装飾行為や変身願望からなる身体装飾行為など大学生において身体装飾行為はどのような意味を持っているのだろうか。

また最近ではダイエットや美容整形などを行う人も多く、日本人の「きれいになりたい」「かっこよくなりしたい」という美への意識が高まってきているように感じる。そのようなファッションや美意識というものはアイデンティティの形成にも大きく関わっている。溝上によると青年期後記のアイデンティティ形成とは自

己を相対的に見つめ、多様な自己を省みながら新たな自己を形成する自己形成プロセスであるといっている。(溝上、2008) また西山は、好きで身体加工するというのは、その本人にとってまぎれもなく自分が自分であり、自分がこの世にいないと証明しなければならないことの証を与えてくれることとなる、と述べており、身体装飾がアイデンティティの形成に影響を与えていることを示唆している。(西山、2007) このことから、大学生などの青年期は自分について深く意識することで容姿やファッションへの意識が高まり、また多様な自己を省みようとして身体装飾行為をおこなうのではないかと考えられる。このように大学生などの青年期はアイデンティティ形成において重要な時期であり、西山が示唆したとおり身体装飾行為とアイデンティティには関連性があるのではないだろうか。

男女に共通する代表的な身体装飾行為である「ヘアカラー」「ピアス」「眉そり」の3つを題材として取り上げ大学生における身体装飾行為に対する位置づけや意識を調査し、またアイデンティティとの関連や身体装飾行為を行う人はどのような傾向があるのか調査したいと思う。

2. 調査に関する状況

(1) 身体装飾の歴史

以下ポーラ文化研究所の文献を用いて身体装飾の歴史を紹介する。

化粧やピアスなどの身体装飾の歴史は古く、古来より魔除けや呪術などに用いられてきた。日本における化粧が最初に確認されたのは、3世紀後半ごろの古墳時代だといわれている。身分の高い豪族の古墳の中には副葬品として赤い顔料で顔や体に化粧を施された埴輪が残されていた。化粧の始まりは現代の私たちが行っているおしゃれや身だしなみとしての化粧とは全く異なったものであった。現代のようなおしゃれを意識した化粧が用いられたのが、6世紀後半の飛鳥時代のころだといわれている。日本から遣隋使が派遣され、多くの文化が大陸から日本に輸入され、日本におけるおしゃれを意識した化粧が始まったといわれている。またその後も化粧意識は変化し、現在のような化粧意識になったのが大正時代である。大正時代には日本でも社会に出て働く女性が増え、女性が外出する機会や

¹ goo ランキング

<http://ranking.goo.ne.jp/ranking/category/999/OrBZDHqZvxfT/> 閲覧日 2月 25日

多くの人とのコミュニケーションをとることが求められた。そのため、美しくあるための化粧と、マナーとしての化粧、両方を兼ね備えた現代の女性と同様な意識を持った化粧に変化していったという。

また他の身体装飾行為においても意識の変化が見られる。最近では街でしている人を見ることの多くなったピアスやタトゥーもそうである。これらの身体装飾行為は最近できたものではない。タトゥーにおいては紀元前2千年前のエジプトのミイラから発見されたことからわかる通り長い歴史をもっている。もともとタトゥーには健康を保証し、悪から遠ざけるという呪術的な意味合いを持っていた。またピアスやタトゥーを民族の証として用い、結束力を高める民族の誇りとして扱われていた。日本においても古くは漁師たちが海難事故を防ぐ呪術的なものとして、漁師の先輩から新人漁師に入れ墨を行い漁師たちの仲間意識を高めていた。

このようにタトゥーやピアスなどの身体装飾は呪術的な意味や、仲間の証として義務的に行われてきた。しかし現在のタトゥーやピアスは以前のような意味合いからファッション性をもったものに変化し、また義務的なものではなく個人の趣味嗜好から行うものへと変化している。

このように身体装飾の歴史は非常に長くその中で、身体装飾を行う理由や、意識も常に変化してきた。そんな身体装飾行為について現在の人々はどうの意識を持っているのだろうか。

(2) 身体装飾行為に関する先行研究

ここでは化粧についての先行研究を紹介する。

1. 化粧についての先行研究

株式会社バルクが20代～60代の女性を対象に行った化粧に対するアンケートでは「あなたはお化粧をどの程度しますか」という問いに対して全体でみると約6割の人が良くする、時々すると回答した人が約2割と多くの女性が化粧を行っていることが分かる。

「あなたは化粧をいつ始めましたか」という問いに対して、中学生くらいと回答した人の割合を年代別で見ると40代以上では約1%、なのに対して、20代で約14.7%となっていた。それに対して「社会人になってから」と答えた人が20代で9.6%、30代で37.4%、40代で40.1%、50代で53.0%、60代で65.3%となっている。このことから化粧年齢が若年化傾向にあることがうかがえる。

2. ピアスについての事前調査

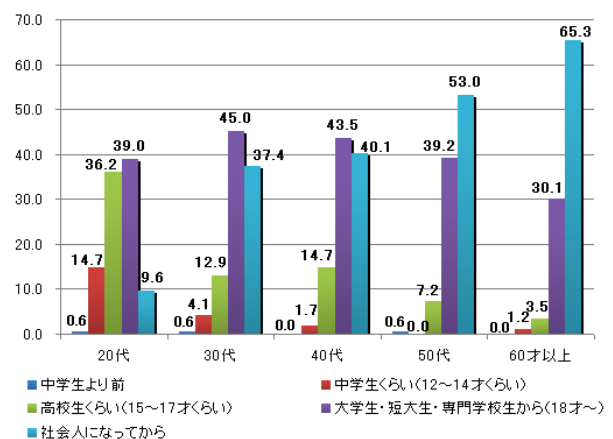
rTIPEが行った調査ではピアス用の穴をあけたことが「ある」と回答したのは、回答者全体の21.7%。男性では5.2%と少なかったが、女性だけでみると42.9%にのぼり、特に30代女性では50%と経験者の割合が多

かった。またピアス用の穴をあけたことがある人に、最初にあけた年齢を聞いてみたところ最も早い人で「13～15歳(中学生)」が5.4%、「16～18歳(高校生)」21.4%、高校卒業直後の時期である「19歳」は26.8%であった。約半数のひとが20歳未満であけていた。年代別で見ると20代では「20歳未満」であけている人割合が6割に達し、若い年代ほど高比率になっており、初ピアスの年齢に若年化の傾向が見られる。(2009年10月ごろ)

3. ヘアカラーについての事前調査

ポーラ文化研究所が行った調査では「染毛している」と回答した人の割合が2000年の調査では全体で63%であった。さらに2003年同様の調査を行った結果74%にまで増加し、ヘアカラー経験がある人が増えてきている。また「茶髪は似合えばやってもよい」という問いに対して、2000年ですでに88%が「はい」と回答しており、2003年においては89%と微増している。年代別で見ると35歳以下では95%前後が支持していたが、高齢者においても支持者が70%を超え、茶髪に対する抵抗感が高齢者においても薄れてきている。1997年、2000年、2003年の調査を比較してみると、特に40代以上の茶髪に対する支持率が年々あがってきている様子がうかがわれ、ここからも世代間のヘアカラーに対する意識のギャップが縮まってきていることが分かる。

こうした調査から化粧やピアスなどの身体装飾行為が低年齢化していることが分かる。またヘアカラーにおいては高齢者のヘアカラーに対する抵抗感の薄れも確認され、身体装飾行為は一般化傾向にあるようだ。それでは調査の説明に入る。



(株式会社バルク 2008年10月10日～2008年10月14日)

第2章 調査研究の方法

1. 進捗経緯

4月～5月	: 事前学習
6月～8月	: 調査テーマ討論・決定
9月～11月	: 質問文・調査表作成
12月	: 調査実施・単純集計
1月	: 報告書作成

2. 調査の概要

(1) 調査の意図・仮説

・身体装飾行為の意識

大学生において身体装飾行為はどんな意味を持っているのか。ファッション性によるものか、自分を変えたいと思う変身願望からなる行為なのか。

・生活満足度と身体装飾行為

高校生活や大学生活で満足できなかった・していない人ほど身体装飾行為をしているのではないか。

・身体装飾行為とアイデンティティ

身体装飾行為はアイデンティティに影響を与えており、身体装飾行為をする人ほどアイデンティティが形成されている。

・身体装飾行為の性差

身体装飾行為には性差により、身体装飾行為の経験や行った理由に違いがあるのではないか。

・身体装飾行為の採用傾向

サークルや部活への所属の有無や、情報源の違いになどより身体装飾行為の採用傾向がみられるか。

(3) 調査対象者と方法

調査場所: 文教大学湘南キャンパス
 調査対象: 文教大学湘南キャンパス生
 調査方法: 紙面による調査票調査を実施

(4) 調査回答者概要

依頼数

: 195枚 (情報行動論: 90枚 : 105枚)

有効回答数

: 174枚 (情報行動論: 82枚 : 92枚)

	1年	2年	3年	4年	合計
回答者	43.1 (75)	10.3 (18)	38.5 (67)	8.0 (14)	100.0 (174)

	男性	女性	合計
回答者	43.7 (76)	56.3 (98)	100 (174)

(5) 主な質問項目

- ・生活満足度(高校生活 大学生生活)
- ・ファッションへの関心
- ・大学デビューについて
- ・身体装飾行為の経験
- ・身体装飾行為をした理由
- ・アイデンティティ尺度
- ・情報源
- ・個人に関する項目

Etc

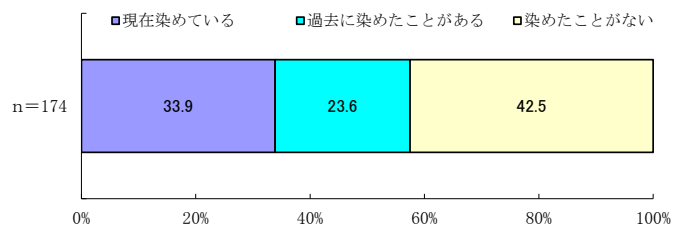
第3章 調査研究の成果

この章では今回の調査での主要な結果をまとめたいと思う。

1. 大学生における身体装飾行為の経験と理由

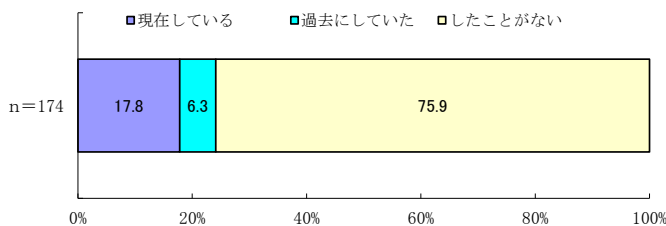
大学生におけるヘアカラーの経験について調べるため、確固現在髪を染めているか、また過去に染めていたことがあるかどうか調査した。その結果が図3-1-1である。現在「染めている人」が約34%、過去に「染めていた人」が約24%、「染めたことがない人」が約43%となった。ヘカラーの経験がある人は全体の約6割近くと大学生の半数以上にヘアカラーの経験があることがわかった。

図3-1-1 ヘアカラー経験



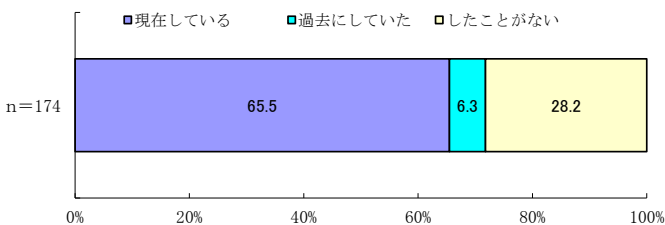
ピアスの着用経験についての質問した結果が図3-1-2である。ピアスを「現在している人」が約18%、「過去にしていた人」が約6%、「したことがない人」が約76%という結果になった。ピアスの着用経験がある人は全体の約2割しかおらず、ピアス着用経験がある人は少なかった。大学生においてピアスはあまり浸透していないといえる。

図3-1-2 ピアス経験



眉そりの経験について質問した結果が図3-1-3である。眉そりを「現在している人」が約66%、「過去にしていた人」が約6%、「したことがない人」が約28%という結果となった。眉そり経験がある人は全体の約7割近くおり、大学生の多くが眉を整えていることが分かった。

図3-1-3 眉そり経験



「ヘアカラー」「ピアス」「眉そり」の3つの身体装飾行為について経験があると答えた人に「自分を変えたい」「気分や雰囲気を変えたい」「イメージチェンジをしたい」という変身についての動機、「周りの人がしているから」「ファッションと合わせたい」「かっこよくおしゃれに見せたい」というファッション性の動機「身だしなみとして」「マナーとしての動機」という主に3つの動機を設定し、「1. 当てはまる」~「4. 当てはまらない」の4段階で回答してもらった。その結果が図3-1-4である。グループの平均の比較を

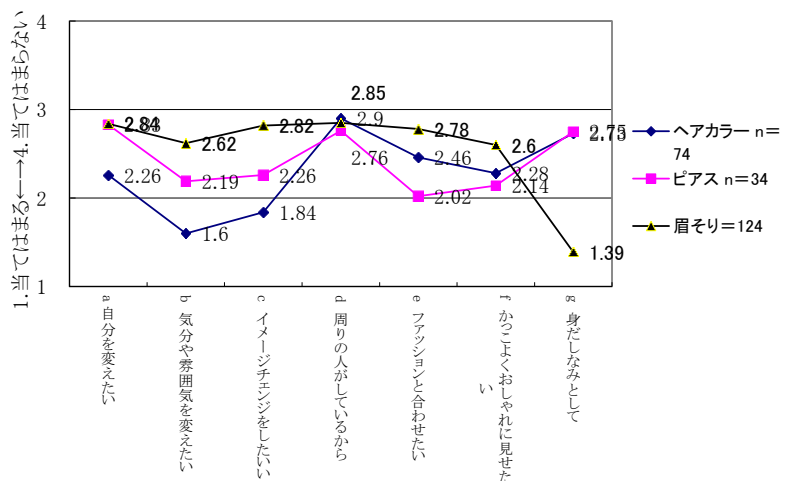
行って分かった結果を下記にまとめる。

1. ヘアカラーは変身についての動機がほかの身体装飾行為より高い傾向にあった。また「気分や雰囲気を変えたい」「イメージチェンジをしたい」という項目においては約半数の人が当てはまると回答していた。しかし、ファッション性の動機はあまり高くなかった。このことからヘアカラーは変わりたという変身についての動機としての意味合いが強いことが分かった。
2. ピアスはファッション性の動機が高く「ファッションと合わせたい」という項目に約4割の人が当てはまると回答した。このことからピアスはファッションとしての意味合いが強いことが分かった。
3. 眉そりは全体的に変身についての動機、ファッション性の動機どちらもあまり当てはまらなかった。しかし「身だしなみとして」の項目は非常に高く7割近くの人が当てはまると回答していた。このことから眉そりはマナーとしての動機により行われていることが分かった。
4. 「ヘアカラー」「ピアス」「眉そり」の3つの項目とも「周りの人がしているから」という項目はあまり当てはまらず、身体装飾行為は自分の意志で行われている。

2. 生活満足度との関連

高校生活に満足できなかった人ほど、大学生活を充実したものにしようと大学デビューを試み、ヘアカラーやピアスなどの身体装飾行為を行うのではないかと、という仮説をもとに高校生活の満足度を調査した。その結果が図3-2-1である。

図3-1-4 身体装飾行為理由



高校生活に「満足していた」が約40%、「やや満足していた」が約32%、「どちらともいえない」が約9%、「あまり満足していなかった」が約10%、「満足していなかった」が約9%と高校生活に満足していた人のほうが多い傾向があった。そこでこの結果を「満足していた」「やや満足していた」を満足層、「どちらともいえない」「あまり満足していなかった」「満足していなかった」を不満層とし、この2つのグループによって身体装飾行為にどのような違いが出るか以下で検討したい。

満足層と不満層で、ヘアカラー経験について集計を行った(図3-2-2)。現在「染めている」は満足層が約37%、不満層は約26%と満足層のほうが現在染めている人の割合が多かった。逆に過去に「染めていた」は満足層が約20%、不満層が約34%と不満層のほうが多い結果となった。(χ²乗値=0.098 自由度=2 NS)

また同様の集計をピアスにおいても行った(図3-2-3)。その結果、ピアスを現在「している」人が、満足層では約22%、不満層では約8%と満足層のほうが多い結果となった。

また不満層のほうがピアスの経験がない人の割合が約8割と多い結果となった。

眉そりについても同様の分析を行ったが、有意差は確認されなかった。また高校生活満足度と採用理由についての分析を行ったが、満足層と不満層の間には意識の差が見られなかった。(χ²乗値=0.094 自由度=2 NS)

この結果から、仮説である「高校生活満足度が低い人ほど身体装飾行為を行う」は支持されず、むしろ高校生活に満足していた人のほうが身体装飾行為を経験している人の割合が高いという仮説と逆の結果となった。

3. 身体装飾行為の性差

性差により身体装飾行為の経験や意識の違いが出るか分析した結果が図3-3-1である。

分析した結果女性のほうが圧倒的に染髪経験のある人が多く、約7割の人が髪を染めた経験があるのに対し、男性では約4割と、男女による性差が

図3-2-1 高校生活満足度

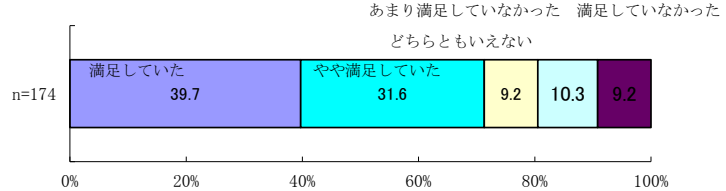


図3-2-2 高校生活満足度とヘアカラー経験(χ²乗*)

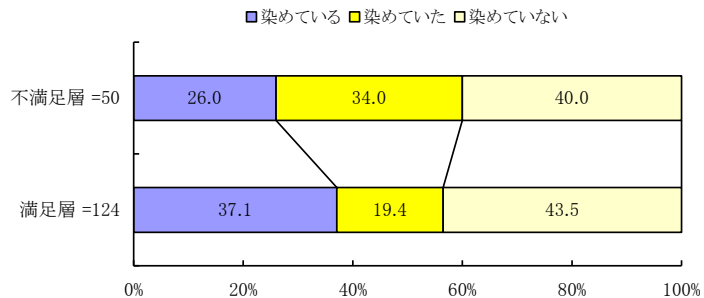


図3-2-3 高校生活満足度とピアス経験(χ²乗*)

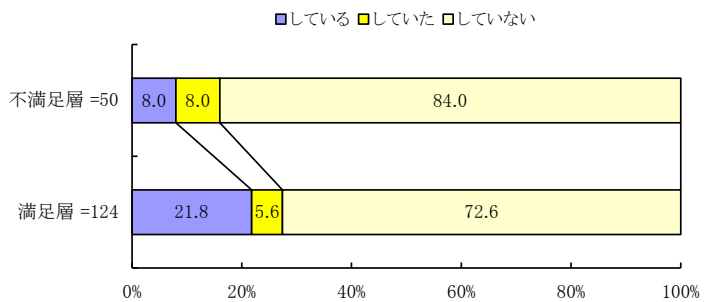


図 3-3-1 ヘアカラー経験(χ²乗***)

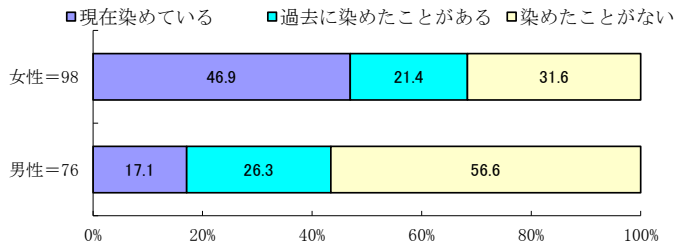
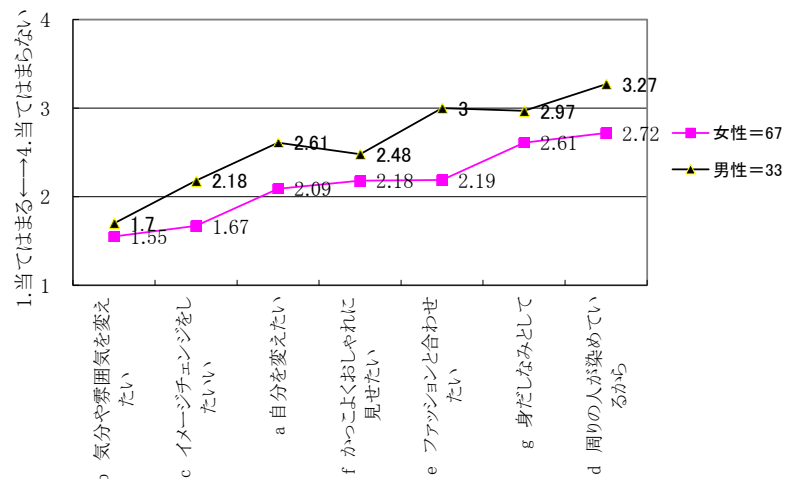


図 3-3-2 ヘアカラー採用理由



見られた。

また男性は現在染めている人よりも過去に染めていたことがある人の割合が多い結果となった。(χ²乗値=0.000 自由度=2 1%水準で有意)

ヘアカラーの採用理由をグループの平均の比較を用いて平均値を男女で分けて分析したものが図3-3-2である。ヘアカラーは全体でみると変身についての動機が高い傾向にあり、男女ともに同じ傾向が見られた。しかし「自分を変えたい」「イメージチェンジをしたい」「周りの人が染めているから」「ファッションと合わせたい」と4つの項目で男女間に有意差が見られた。男性より女性のほうが多くの項目で採用理由がはっきりとしている傾向にあった。

ピアスにおいても男女による性差が見られ、女性では約3割の人に着用経験があった(図3-3-3)が、男性では約1割の人しか着用経験がなかった。女性にはある程度着用者がいたが全体的に見ても約2割しか着用経験がなく、ピアスはあまり大学生に浸透していないといえる。(χ²乗値=0.000 自由度=2 1%水準で有意)

ピアスの着用理由をグループの平均の比較を用いて平均値を出したものが図3-3-4である。ピアスはファッション性の動機が強い傾向にあったが、女性においては「気分や雰囲気を变えたい」「イメージチェンジをしたい」という変身についての動機も高い傾向がみられる。「気分や雰囲気を变えたい」という項目では男女間に有意差が確認され、男性より女性のほうが当てはまると回答していた。また「かっこよくおしゃれに見せたい」や「身だしなみとして」においては男性のほうが女性より高い傾向にあった。

眉そりについて質問した結果の図が3-3-5である。また眉そりにおいても男女による性差がみられ、女性の約8割に眉そりの経験があり、男性の約5割より圧倒的に多い結果となった。これは女性が化粧をしていることの影響が考えられるのではないだろうか。

眉そりを行う理由をグループの平均の比較を用いて平均値を出した図が3-3-6である。眉そりを行う理由として全体でみるとマナーとしての動機が強い傾向にあり、男女とも同じ傾向が見られた。また「自分を変えたい」「気分や雰囲気を变えたい」「周りの人が染めているから」「ファッションと合わせたい」の

図 3-3-3 ピアス着用経験(χ²乗)**

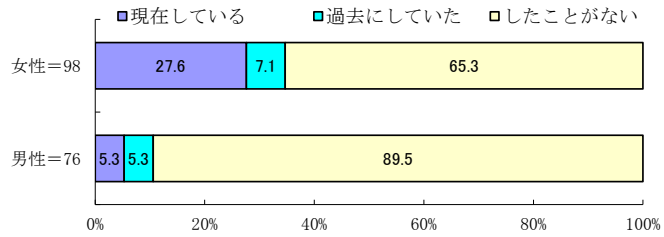


図 3-3-4 ピアス着用理由

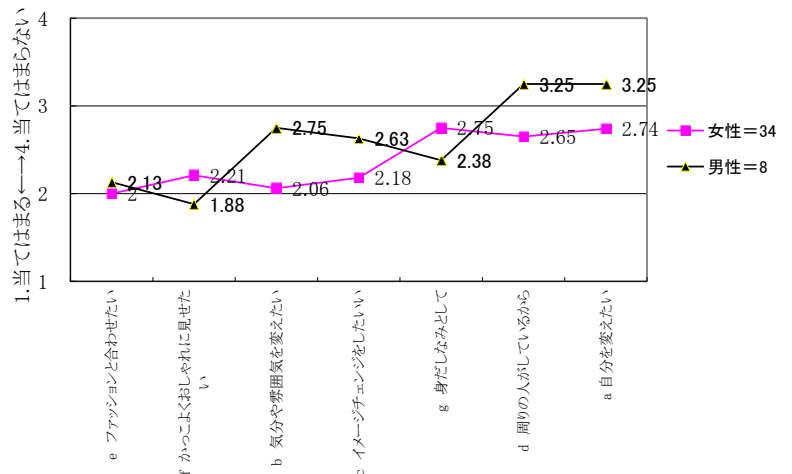


図 3-3-5 眉そり経験(χ²乗)**

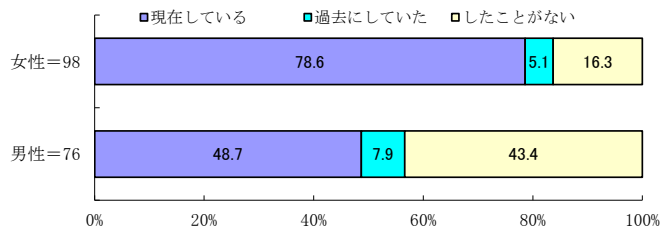
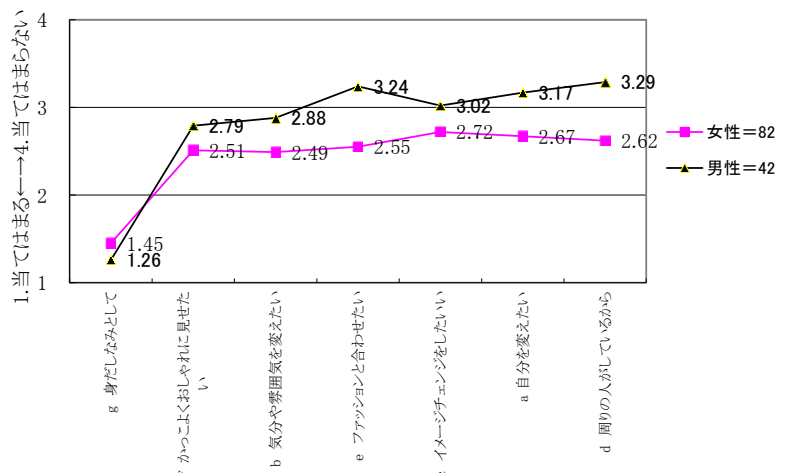


図 3-3-6 眉そり理由



項目において男女間での有意差が見られ、女性のほうが理由の当てはまる割合が高い傾向にあった。(χ²乗値 0.001 自由度 3 1%水準で有意)

服装や容姿への関心度と性別について分析した表が図3-3-7である。その結果、服装や容姿に気を使っているが女性は約22%なのに対し、男性は約13%となっている。やや気を使っているが女性約57%、男性約40%と女性ほうが服装や容姿への関心が高いことがわかる。また気を使っていないにおいても女性は約1%なのに対し、男性では約9%となっている。

図3-3-1から図3-3-6で示してきたように身体装飾行為の採用率が男性より女性のほうが高いのはファッションや容姿への関心が女性のほうが高いからではないだろうか。

4. ファッションと身体装飾行為

身体装飾行為はファッションの一部として取り入れられている可能性が高い。そのため服装や容姿への関心度が身体装飾行為に影響しているか調査した。その結果が図3-4-1である。服装や容姿に「気を使っている」人は約18.0%、「少し気を使っている」は約50%、「あまり気を使っていない」は約28%、「気を使っていない」は約5%となった。全体的に服装や容姿への関心度は高い傾向にあったが、関心の低い層も見られた。そこで服装や容姿への関心度を「気を使っている」「少し気を使っている」を高関心層、「あまり気を使っていない」「気を使っていない」を低関心層として以下で検討していきたいと思う。

服装や容姿への関心度とヘアカラー経験について分析した結果が図3-4-2である。低関心層では現在染めている人が約20%、高関心層では約40%と倍近くの差があった。また染めたことがない人の割合も低関心層では約6割、高関心層では約3割とこちらも倍近くの差があり服装や容姿への関心度高い人ほどヘアカラーの経験があることが分かった。(χ²乗値=0.000 自由度=2 1%水準で有意)

また同様の分析を眉そりにについても行った結果が図3-4-3である。低関心層では現在している人が約43%、高関心層では約75%と高関心層のほうが圧倒的に高かった。またしていない人の割合も低関心層約54%、高関心層約16%となり、ヘアカラーと同様の傾向が眉そりでも確認できた。(χ²乗値=0.000 自由度=2 1%

図3-3-7 服装や容姿への関心と性別(χ²乗:**)

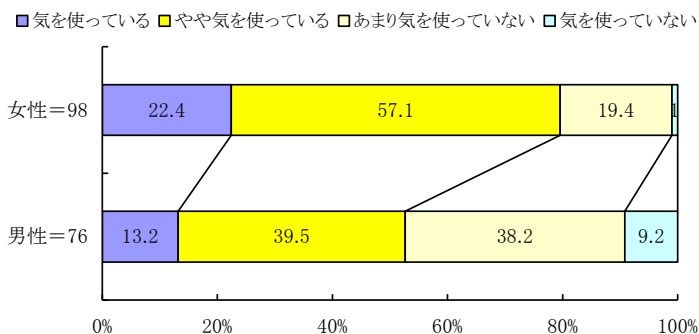


図3-4-1 服装や容姿への関心度

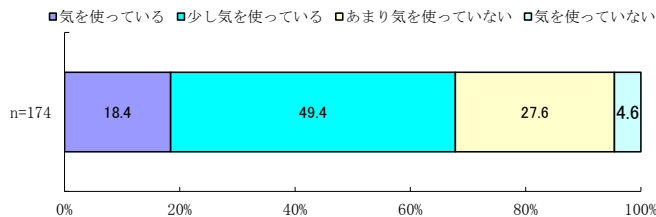


図3-4-2 服装や容姿への関心とヘアカラー経験(χ²乗:**)

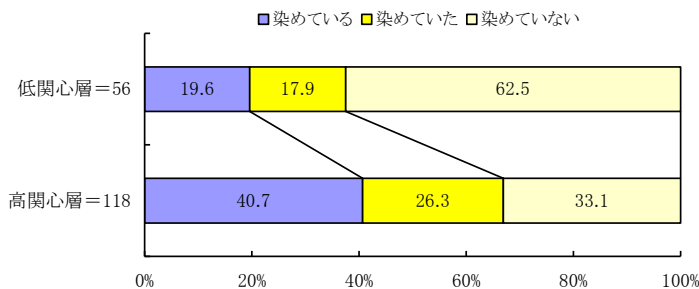
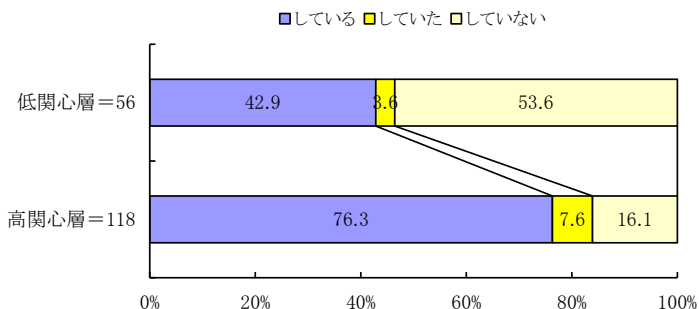


図3-4-3 服装や容姿への関心と眉そり経験(χ²乗:**)



水準で有意)

ピアスについても同様の分析を行ったが、有意差は確認できなかった。

最近ではテレビや雑誌、インターネットなど多くのツールから情報を入手できるようになった。雑誌やインターネットなどでもヘアカラーやピアスなどの身体装飾行為についての記事や広告をよく目にする。そこで情報の入手源の違いにより身体装飾行為に差が出るか検討するためファッション情報の入手源について質問した結果が図3-4-4である。

図3-4-4 情報の入手源(ファッション) n=174

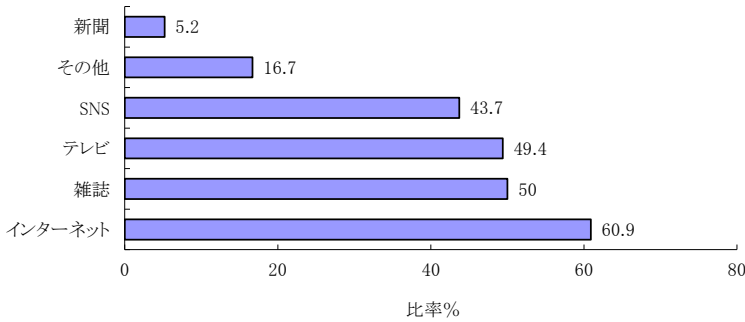


図3-4-5 情報(ファッション)の入手源とヘアカラー経験

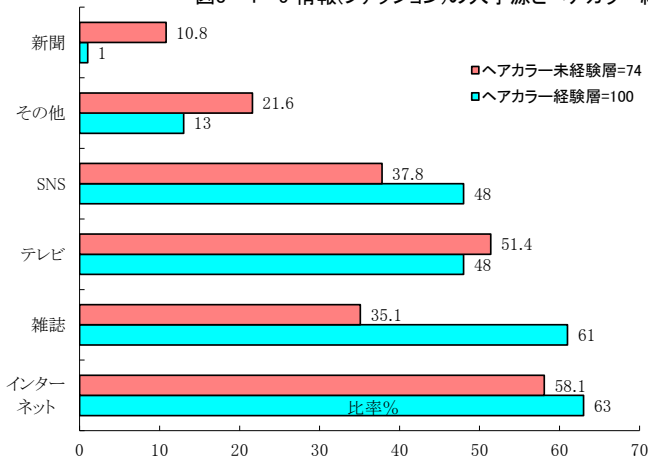
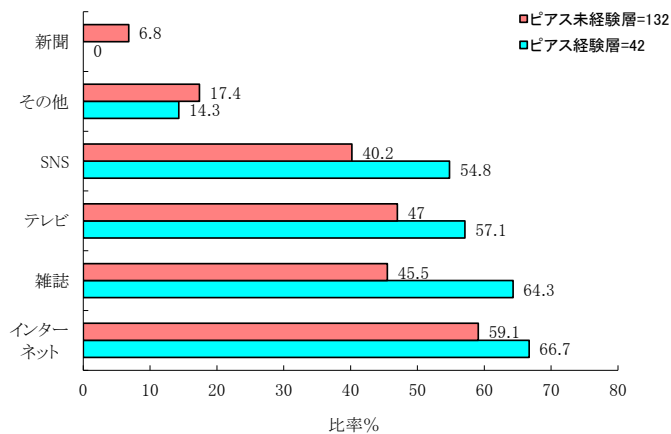


図3-4-6 情報(ファッション)の入手源とピアス経験



その結果インターネットが最も高く約61%、次に雑誌、テレビが約50%と続き、SNS約44%、その他約17%、新聞約5%となった。

ヘアカラーの経験がある層とヘアカラー経験のない層の2つのグループに分け、情報の入手源に違いがあるか分析した結果が図3-4-5である。雑誌の項目においてヘアカラー経験層約61%と未経験層約35%と大きな差がみられた。新聞とテレビの項目においては若干未経験層のほうが高い結果となった。ヘアカラーの情報については雑誌の影響が大きいのではないだろうか。

同様にピアスにおいても同じ分析を行った。その結果が図3-4-6である。ピアスでも雑誌の項目において未経験層約46%、経験層約64%と経験層のほうが雑誌で情報を得ている人の割合が高かった。新聞においては未経験層のみ約7%だった。またSNSの項目において未経験層約40%、経験層約55%と経験層のほうがSNSから情報を入手している傾向にあった。このことからピアス経験層はメディアにより積極的であることが分かる。

同様の分析を眉そりについても行った。眉そりについてもヘアカラーとピアスと同様の結果が得られ、未経験層より経験層のほうが雑誌、SNSともに情報を入手している人の割合が高かった。また新聞でも同じ傾向が見られた。

5. アイデンティティと身体装飾行為

アイデンティティと身体装飾行為の関連性を分析するため下山(1992)が作成したアイデンティティ尺度を用い、大学生のアイデンティティについて調査した。アイデンティティ尺度とは日本の大学生の「モラトリアル心理」とアイデンティティの確立度の関連を検討するために、開発されたものであり、アイデンティティの確立とアイデンティティの基礎の2つの尺度に分かれている。

まずアイデンティティ尺度の結果を示す。

	平均
アイデンティティの確立	23.27
アイデンティティの基礎	22.63

この結果をもとにヘアカラー、ピアス、眉そりの3つの身体装飾行為の経験者と非経験者に分けグループの平均の比較を用いてアイデンティティに差が出るか検定を行った。その結果ヘアカラー、ピアス、眉そりの3つの身体装飾行為の経験者と非経験者の間に明確な差は見られなかった。

図 3-5-1

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
自分一人で初めてのことをするのは不安だ	0.758	-0.017	-0.089	-0.247	0.043
まわりの動きについていけず、自分だけ取り残されたと感じることもある。	0.753	-0.025	0.241	-0.115	0.064
私は、人が見ているとうまくやれない	0.663	0.077	0.300	0.088	-0.125
私の心は、とても傷つきやすく、もろい	0.658	-0.019	0.018	0.272	-0.014
自分の中には、常に漠然とした不安がある	0.593	-0.251	0.165	-0.053	-0.198
私は、やりそこないをしないかと心配ばかりしている	0.481	-0.196	0.218	0.169	0.344
私は、どうしたらよいかわからなくなると自分の殻に閉じこもってしまう。	0.441	-0.043	0.305	-0.164	-0.218
私は、魅力的な人間に成長しつつある	0.066	0.795	-0.183	0.125	0.139
社会の中での自分の生きがいが増えてきた	-0.081	0.775	0.170	0.039	0.201
自分にまとまりが出てきた	-0.179	0.702	-0.003	0.243	0.013
自分は、何かをつくりあげることのできる人間だと思う。	0.002	0.695	0.182	0.257	0.022
私は、十分に自分を信頼している。	-0.058	0.600	-0.277	0.186	0.327
異性との付き合い方がわからない。	0.183	-0.096	0.798	-0.085	0.132
何かしているより空想に耽っていることが多い	0.181	0.103	0.785	0.110	0.016
私は、人と活発に遊べない	0.422	0.038	0.521	-0.052	-0.245
私は、自分なりの価値観を持っている。	0.032	0.172	-0.128	0.807	0.117
私は、自分の個性をととても大切にしている。	-0.045	0.243	0.077	0.753	-0.039
私は、自分なりの生き方を主体的に選んでいる。	-0.052	0.315	0.024	0.606	0.293
私は、興味を持ったことはどんどん実行していく方である。	-0.039	0.172	0.019	0.038	0.799
自分の生き方は、自分で納得のいくものである。	-0.138	0.385	-0.017	0.181	0.724
平方和	3.11	3.01	2.05	2.03	1.73
寄与率	15.5	15.3	10.2	10.2	8.7
累積寄与率					59.95

次にアイデンティティ尺度に因子分析を行った。その結果が図の3-5-1である。

因子分析の結果5つの因子が検出された。その結果が図3-5-2である。第1因子には「対人不安」、第2因子には「自我の形成」、第3因子に「対人関係」、第4因子には「個人の価値観」、第5因子に「個人の人生観」と名付けた。検出された5つの因子をもとに身体装飾行為経験者と非経験者の間にどのような差があるか下記で分析していく。

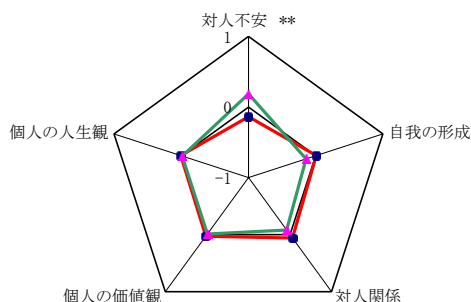
ヘアカラー経験の有無で分析した結果が図3-5-3である。ヘアカラー経験者と非経験者の間に対人不安の項目で有意差が見られた。ヘアカラー経験者のほうが対人不安の数値が経験者より低く、非経験者のほうが対人不安をより強く感じている傾向にあった。つまりヘアカラーを行っている人のほうが不安を感じないと傾向がある。少し前の時代であれば髪を染めている人は珍しかったが、今では髪を染めていることは珍しいことではなく、むしろ髪を染めていることにより周りと同合わせることで、対人不安も感じなくなっているのではないだろうか。

図 3-5-2

因子(平方和、寄与率)	因子の内容
第1因子 (3.1, 15.5%) Ide1 対人不安	初めてのことへの不安 自分だけ取り残された感じる 人の目があるとうまくできない 心が傷つきやすく、もろい 漠然とした不安 遣り損ないをしないか心配 自分の殻に閉じこもってしまう
第2因子 (3.0, 15.3%) Ide2 自我の形成	魅力的な人間への成長 自分の生きがいがあった まとまりが出てきた 何かを作り上げることができる人間 自分を信頼している
第3因子 (2.0, 10.2%) Ide3 対人関係	異性との付き合い方がわからない 空想にふけることがある 人と活発に遊べない
第4因子 (2.0, 10.2%) Ide4 個人の価値観	自分なりの価値観 自分の個性を大切にしている 自分なりの生き方を主体的に選んでいる
第5因子 (1.7, 8.7%) Ide5 個人の人生観	興味を持ったことを実行する 納得した生き方をしている

(注)平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は60.0%である。

図3-5-3 ヘアカラー経験別の因子得点



●ヘアカラー経験者=99 ●ヘアカラー非経験者=74

第3章 まとめと今後の課題

1. まとめ

今回の調査では大学生における身体装飾行為の意識について調査した。その結果、文教大生の多くがヘアカラー経験や眉そりの経験があることが分かった。このことから大学生においてヘアカラーや眉そりという身体装飾行為は一般化してきているといえるだろう。またヘアカラー、ピアス、眉そりともに男性より女性のほうが経験者の割合が多かった。これは下記でも述べるようにファッション意識の違いにより女性には身体装飾行為の経験が多いと考えられる。

まず身体装飾行為の意識についてだが、ヘアカラー、ピアス、眉そりとも別の採用理由の傾向が確認された。ヘアカラーは変身への動機として、ピアスはファッション性の動機として、眉そりはマナーとしての動機というように、身体装飾行為を行う理由が異なっていた。また身体装飾の意識には男女での差が確認され、ほとんどの項目において女性のほうがより「当てはまる」と回答が多く、女性のほうがより意識して身体装飾行為を行っていることが分かった。

次に生活満足度との関連だが「高校生時代の生活満足度が低い人ほど、大学デビューを試み、身体装飾行為を行う」という仮説を立てたが、この仮説は支持されず、むしろ高校生活満足度が高い人ほど身体装飾行為の経験者の割合が多い結果となった。高校生活満足度の高い人はファッションへの関心も高く、ファッションの一部として身体装飾行為が行われているためこのような結果になったのではないだろうか。

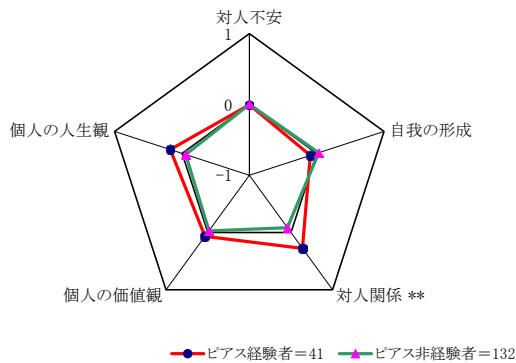
しかし周りに大学デビューだと感じる人はいますかという問いに対しては約6割の人が周りに大学デビューだと感じる人がいると多くの人が回答している。大学デビューといえば金髪やピアスなどをして、派手な格好をしているようなイメージであったが、今ではそのような傾向はあまり見られなくなったと、この結果から推測できる。

今回の調査ではファッションと身体装飾行為の関連性が確認できた。ファッションへの関心が高い人ほどヘアカラーや眉そりの経験が高いという結果であった。このことから身体装飾行為というものはファッションの一部として取り入れられていると考えられる。また情報源においても身体装飾行為の経験に差が生じ、身体装飾行為を行っている人は雑誌やSNSから情報を得ている傾向にあった。ファッション雑誌にはヘアカラーについての特集や眉そりのしかたなど身体装飾行為についての記事も多いため経験に差が出たのだろう。ファッションとは常に流行によって変化していくものである。そのためSNSは流行を把握するうえで最適なツールであるといえ、ファッション意識が高い人ほど流行を把握しようとSNSをしていると考えられる。

先行研究で調べたように以前はタトゥーやピアスな

ピアスの経験で分析した結果が図の3-5-4である。ピアス経験者と非経験者の間で対人関係の項目において有意差が見られた。ピアス経験者のほうが非経験者より、対人関係の数値が高く、非経験者より対人関係をうまく行うことができていることが分かった。

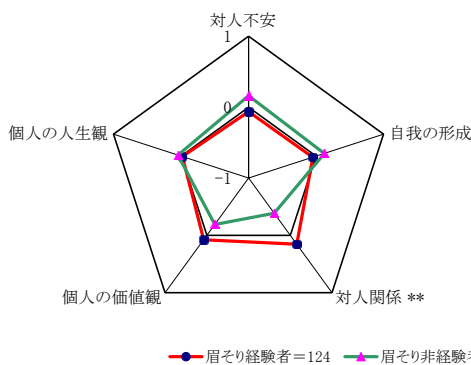
図3-5-4 ピアス経験別の因子得点



眉そり経験で分析した結果が図3-5-5である。眉そりでも経験者と非経験者の間で対人関係の項目に有意差が見られた。ピアスと同じように経験者のほうが、非経験者より対人関係数値が高く対人関係をうまく行うことができる。

上記の結果からもわかるように、身体装飾行為の経

図3-5-5 眉そり経験別の因子得点



験者と非経験者の間には対人不安や対人関係について有意差が確認された。これまで述べてきたように身体装飾行為は一般化してきている行為だといえる。多くの人が身体装飾行為を行うことが当たり前になっている現代だからこそ、身体装飾行為を行っている人のほうが周りに溶け込みやすく、対人関係をうまく構築することができるのではないだろうか。

どの身体装飾行為が民族の結束を高め文化的アイデンティティの形成に影響を与えていた。しかし今回の調査では身体装飾行為がアイデンティティの形成に影響を与えているという結果は得られなかった。これは以前のようなアイデンティティとしての身体装飾からファッションとしての身体装飾へと意識が変化していったからだと考察できる。

2. 今後の課題

今回の調査をするにあたり、アイデンティティと身体装飾行為の関連性は確認することができなかった。おそらく今回取り上げたヘアカラーやピアス、眉そりといった行為は誰でも簡単に行うことができ、アイデンティティの形成に影響を与えるものではなかった。そのため身体装飾行為の中でも簡単に行うことができず、また永続的に残る入れ墨やタトゥー、整形などといった行為について調査を行うことでアイデンティティと関連性が見つかるかもしれない。

参考文献

西山哲郎(2007)「現代の身体加工にみる自己アイデンティティ構築のエコノミー」『中京大学現代社会学部紀要』vol.1, no.2, p.121-139

S. B. カイザー(1994)『被服と身体装飾の社会心理学—装いのこころを科学する』北大路書房

宇野保子(2006)「身体装飾について：第1報 ファッション意識との関連」『中国学園紀要』5, 1-8

ポーラ文化研究所 やさしい化粧文化史
<http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunke/muh/01.html>

バルクマーケティングリサーチ 化粧に関する調査
<http://www.vlcan.com/mr/report/013/002>

rTYPE 女性はOK?男女で差のある職場でのピアス許可 <http://release.center.jp/2009/09/3001.html>

ポーラ文化研究所 現代女性の髪への意識
http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunke/report/pdf/040213hakusho_hair.pdf

全理連 理容の歴史
http://www.riyo.or.jp/library/etc_rekisi.html

大学デビューのためにしたことランキング
<http://ranking.goo.ne.jp/ranking/category/999/OrBZDHqZvxft/>

単純集計結果

大学生活に関する調査

情報学部広報学科 松島岳広

「社会調査Ⅲ」の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1 高校生活に満足していましたか。(1つに○)

1. 満足していた 39.7	2. やや満足していた 31.6	3. どちらとも言えない 9.2
4. あまり満足していなかった 10.3	5. 満足していなかった 9.2	

問2 高校時代の友人と交友がありますか。(1つに○)

1. よくある 42.5	2. 少しある 42.0	3. あまりない 9.2	4. 全くない 6.3
--------------	--------------	--------------	-------------

問3 大学生活に満足していますか。(1つに○)

1. 満足している 19.0	2. やや満足している 46.0	3. どちらとも言えない 19.5
4. あまり満足していない 9.8	5. 満足していない 5.7	

問4 自分は大学に入って変わったと思いますか。(1つに○)

1. 変わった 19.5	2. 少し変わった 42.5	3. あまり変わっていない 29.9	4. 変わっていない 8.0
--------------	----------------	--------------------	----------------

問5 大学以前の自分と今の自分どちらが好きですか。(1つに○)

1. どちらかといえば大学以前の自分 35.1	2. どちらかといえば今の自分 64.9
-------------------------	----------------------

問6 あなたは服装や容姿に気を使っていますか。(1つに○)

1. 気を使っている 18.4	2. やや気を使っている 49.4
3. あまり気を使っていない 27.6	4. 気を使っている 4.6

問7 あなたの周りで「大学デビュー」だと感じる人はいますか。(1つに○)

1. よくいると感じる 20.1	2. 少しいると感じる 42.0	3. どちらともいえない 24.1
4. あまりいないと感じる 8.6	5. 全くいないと感じる 5.2	

問8 「大学デビュー」についてどのような印象を持ちますか。(1つに○)

1. とても良い印象 5.7	2. 少し良い印象 17.8	3. どちらともいえない 61.5
4. 少し悪い印象 10.3	5. とても悪い印象 4.6	

問9 髪を染めていますか。(1つに○)

1. 染めている 33.9	2. 染めていた 23.6	3. 染めていない→問11へ 42.5
---------------	---------------	---------------------

問10 髪を染めた理由について当てはまり具合をお答えください。N=100

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
自分を変えたい	26.0	37.0	22.0	15.0
気分や雰囲気を変えたい	53.0	37.0	7.0	3.0
イメージチェンジをしたい	48.0	29.0	14.0	9.0
周りの人が染めているから	10.0	27.0	26.0	37.0
ファッションと合わせたい	19.0	35.0	27.0	19.0
かっこよくおしゃれに見せたい	25.0	39.0	19.0	17.0
身だしなみとして	11.0	31.0	32.0	26.0

問11 ビアスをしていますか。(1つに○)

1. している 17.8	2. していた 6.3	3. していない→問13へ 75.9
--------------	-------------	--------------------

問12 ビアスをした理由について当てはまり具合をお答えください。N=42

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
自分を変えたい	9.5	23.8	40.5	26.2
気分や雰囲気を変えたい	35.7	28.6	16.7	19.0
イメージチェンジをしたい	33.3	26.2	21.4	19.0
周りの人がしているから	16.7	23.8	26.2	33.3
ファッションと合わせたい	40.5	31.0	19.0	9.5
かっこよくおしゃれに見せたい	33.3	31.0	23.8	11.9
身だしなみとして	22.7	13.6	36.4	27.3

問13 眉を整えていますか。(1つに○)

1. 整えている 65.5	2. 整えていた 6.3	3. 整えていない→問15へ 28.2
---------------	--------------	---------------------

問 14 眉を整えている理由について当てはまり具合をお答えください。 N=124

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
自分を変えたい	12.1	21.0	37.9	29.0
気分や雰囲気を換えたい	15.3	31.5	29.0	24.2
イメージチェンジをしたい	13.0	22.0	35.0	30.1
周りの人がしているから	11.4	27.6	26.0	35.0
ファッションと合わせたい	11.3	29.0	29.8	29.8
かっよくおしやれに見せたい	18.5	27.4	29.0	25.0
身だしなみとして	66.9	29.8	0.8	2.4

問 15

以下に文章を読み、それが自分の状態にどの程度当てはまっているかを下記の四段階から一つ選び、回答してください。直感的に感じたまま答えを選んで、次の項目に進んでください。

	まる	よく当てはまる	はまる	い	え	は	ど	ど	ま	全
	まる	よく当てはまる	はまる	い	え	は	ど	ど	ま	全
1. 私は、興味を持ったことはどんどん実行していく方である。	31.6	48.9	18.4	1.1						
2. 自分の生き方は、自分で納得のいくものである。	17.2	44.3	29.9	8.6						
3. 私は、十分に自分を信頼している。	15.5	34.5	37.9	12.1						
4. 私は、自分なりの生き方を主体的に選んでいる。	21.8	54.6	21.8	1.7						
5. 自分は、何かをつくりあげることのできる人間だと思う。	10.3	30.5	46.6	12.6						
6. 社会の中での自分の生きがいが増えてきた。	12.1	17.8	52.9	17.2						
7. 自分にまとまりが出てきた。	8.0	33.9	46.6	11.5						
8. 私は、自分の個性をととても大切にしている。	27.6	46.6	23.6	1.7						
9. 私は、自分なりの価値観を持っている。	40.2	47.1	10.9	1.7						
10. 私は、魅力的な人間に成長しつつある。	6.3	20.7	52.3	20.7						

	まる	よく当てはまる	い	え	は	ど	ど	ま	全
	まる	よく当てはまる	い	え	は	ど	ど	ま	全
1. 私は、やりそこないをしないかと心配ばかりしている。	29.3	45.4	20.7	4.6					
2. 私の心は、とても傷つきやすく、もろい。	23.6	40.2	29.9	6.3					
3. 異性との付き合い方がわからない。	21.8	37.9	24.7	15.5					
4. 何かしているより空想に耽っていることが多い。	21.3	35.6	32.8	10.3					
5. 私は、人が見ているとうまくやれない。	24.7	42.5	25.3	7.5					
6. 私は、どうしたらよいかわからなくなると自分の殻に閉じこもってしまう。	14.9	30.5	40.8	13.8					
7. 自分一人で初めてのことをするのは不安だ。	32.2	42.5	17.8	7.5					
8. まわりの動きについていけず、自分だけ取り残されたと感じることもある。	21.8	47.7	23.6	6.9					
9. 私は、人と活発に遊べない。	9.2	27.0	43.1	20.7					
10. 自分の中には、常に漠然とした不安がある。	24.7	45.4	23.6	6.3					

問 16 あなたの情報(ファッション)の入手源はどれですか。(当てはまるものすべて○)

1. テレビ 49.4	2. 新聞 5.2	3. インターネット 60.9
4. SNS 43.7	5. 雑誌 50.0	6. その他 16.7

問 17 あなたが重要視するものはどれですか。(当てはまるものすべてに○)

1. 容姿 36.6	2. お金 70.9	3. 家族 55.2	4. 友人 69.2
5. 健康 44.8	6. 時間 60.5	7. 恋人 26.2	8. 趣味 70.9
9. 夢 33.7	10. その他 4.1		

最後にあなた自身についてお聞きします。

F1. あなたの住まいはどれですか。(1つに○)

1. 1人暮らし(アパート・下宿など) 54.6	2. 実家 42.0	3. その他 3.4
--------------------------	------------	------------

F2. 性別(1つに○)

1. 男 43.7	2. 女 56.3
-----------	-----------

F3. 学年(1つに○)

1. 1年次 43.1	2. 2年次 10.3	3. 3年次 38.5	4. 4年次 8.0
-------------	-------------	-------------	------------

F4. サークルや部活動に所属していますか。(1つに○)

1. 文化系のサークル、部活 46.6	2. 体育会系のサークル、部活 17.8
3. 両方 3.4	4. 所属していない 32.2

F5. 卒業後の志望業種はどれですか。(当てはまるもの3つまでに○)

1. メーカー(素材) 1.7	2. メーカー(電気・機械) 2.3	3. メーカー(生活関連) 9.8
4. 建設・土木・不動産 1.1	5. 流通・アパレル・商社 12.6	6. 旅行・レジャー 5.7
7. サービス 17.2	8. 金融 1.7	9. 運輸・倉庫 0.6
10. IT 4.0	11. マスコミ 51.7	12. アミューズメント 9.8
13. 公務員 12.6	14. 社会福祉 1.7	15. その他 13.2
16. 未定 16.1		

F6. 学科(1つに○)

1. 広報 56.3	2. 経営情報	3. 情報システム 0.6
4. 国際理解	5. 国際観光	6. 健康栄養
7. メディア表現 43.1	8. 情報社会学	9. 経営

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。